

# 足立区環境基本計画

～平成26年度実績報告～



平成 27 年 10 月

 足立区

## 日本で一番「地球にやさしいひとのまち」をめざして

この報告書は、「足立区環境基本計画」の平成 26 年度の施策の取組結果や進捗状況及びその評価を取りまとめたものです。

環境基本計画は以下の 6 つの柱で構成されており、柱ごとに主な施策の実績をまとめています。

- 1 地球温暖化・エネルギー対策
- 2 循環型社会の構築
- 3 健康・安全な暮らしの確保
- 4 人と自然の豊かなふれあいの創出
- 5 環境に配慮したまちづくり
- 6 環境を学び、実践の輪を広げる

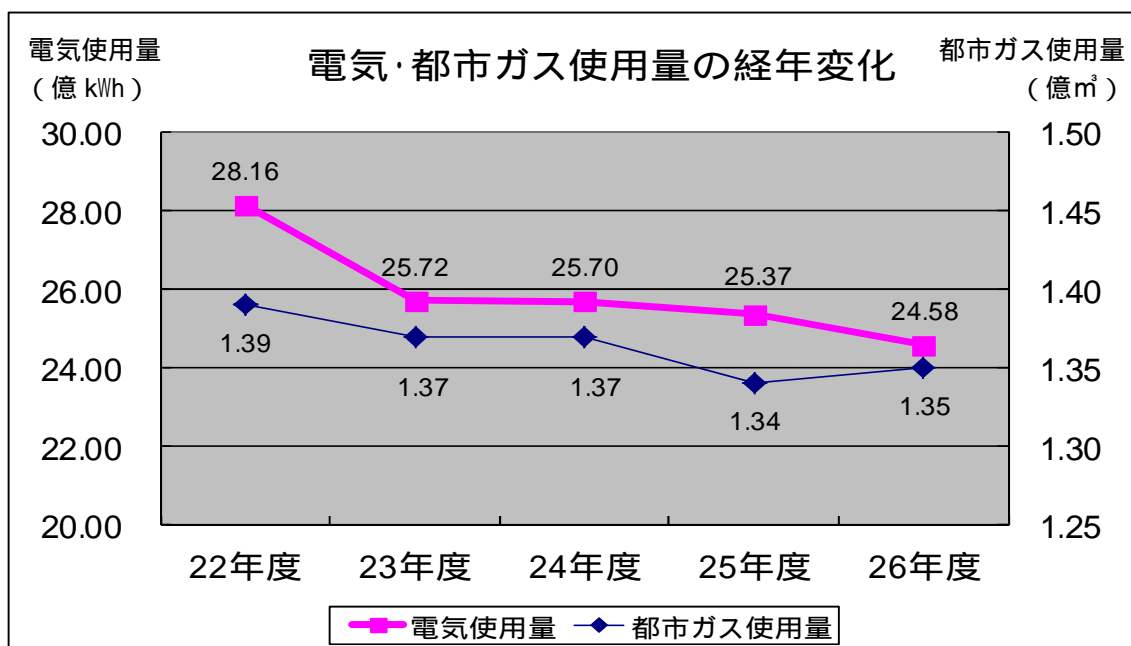
この情報をみなさんと共有し、私たち一人ひとりが環境を考え、行動し、日本で一番「地球にやさしいひとのまち」をめざしていきましょう。

### 各柱の主な指標

#### 1 地球温暖化・エネルギー対策

##### 主な指標「電気使用量」「都市ガス使用量」

平成 27 年度までに平成 22 年度比で、電気使用量を 10%、都市ガス使用量を 2%減らす。



平成 26 年度の区内の年間電気使用量は、24 億 5,836 万 kwh で、平成 27 年度目標値以下となり、目標を達成しました。区内の年間都市ガス使用量については、前年度の使用量を上回りましたが、26 年度も目標を達成しています。引き続き、節電・省エネの呼びかけや高効率設備機器の導入支援策を進めていきます。

太陽光パネルの発電容量は増加しているものの、このペースでは目標達成は難しい状況です。今後も目標達成に向けて、補助金制度のPRを図っていきます。

区施設の電気・ガスの使用量については、区全体よりも高い削減目標を掲げました。26 年度の電気使用量・都市ガス使用量は前年度に比べて減少しましたが、電気使用量については、目標達成が厳しい状況です。職員の省エネや節電に対する意識啓発を行っていくとともに、エネルギー使用量の「見える化」や電力調達方法の工夫など、使用量の削減につながる取り組みを施設のエネルギー使用の特性に応じて検討していきます。

## 目標

指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)	27 年度 目標値
区内の年間電気使用量(kWh)	25 億 3,708 万	24 億 5,836 万 22 年度比 13% ( 7,872)	25 億 3,418 万 (22 年度比 10%)
区内の年間都市ガス使用量(m <sup>3</sup> )	1 億 3,413 万	1 億 3,478 万 (65 万)	1 億 3,589 万 (22 年度比 2%)
区内に設置された太陽光パネルの 発電容量(kW)	16,800	約 19,940 (約 3,140)	25,000
区施設での年間電気使用量(kWh)	7,122 万	6,900 万 ( 222 万)	6,586 万
区施設での年間都市ガス使用量 (m <sup>3</sup> )	338 万	314 万 ( 24 万)	337 万
自転車駐車場収容台数(台)	59,859	59,191 ( 668)	64,000
自転車利用環境整備延長(km)	1.3	1.3 (0)	1.3

なお、区全体と区公共施設のCO<sub>2</sub>排出量は経年の変化を捉えるため、参考値として、毎年数値を把握しています。このうち、区全体のCO<sub>2</sub>排出量は、国や都の統計データがそろってから排出量の算定をするため時間がかかり、平成26年度に確定したのは24年度の排出量です。

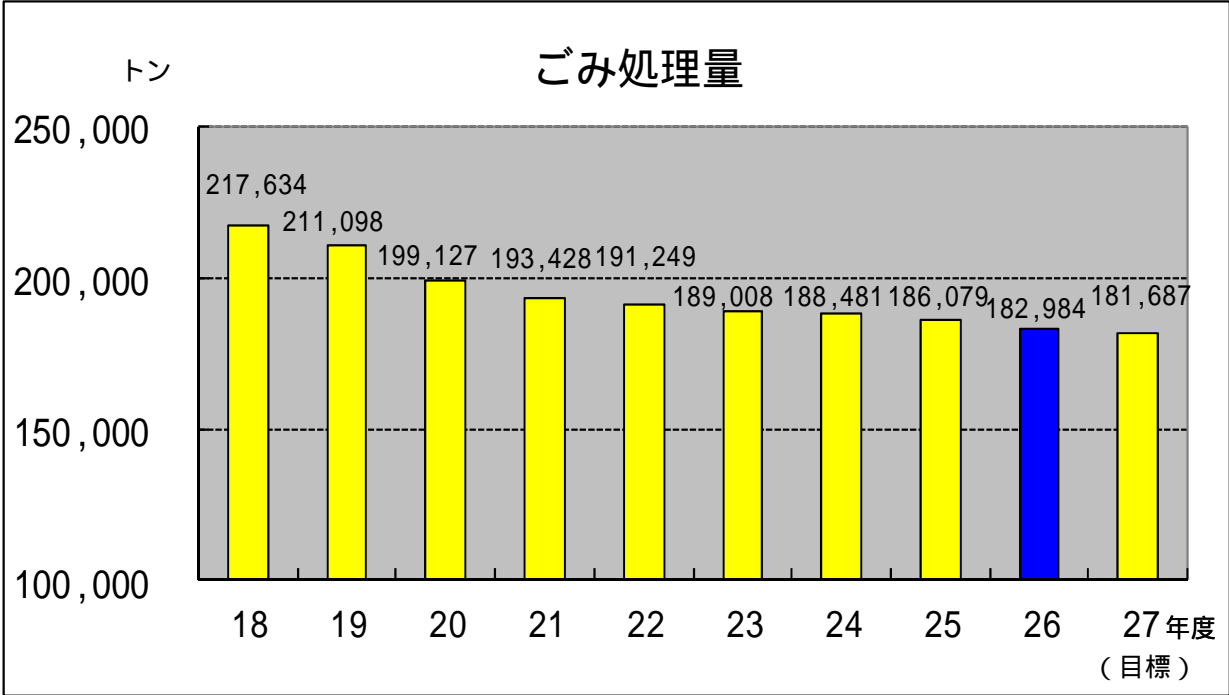
参考値

参考指標	25年度に確定した 23年度の排出量	26年度に確定した 24年度の排出量 (対前年度増減)
CO <sub>2</sub> 排出量(区全体)(トン)	242万	256万 (14万)
参考指標	25年度実績	26年度実績 (対前年度増減)
区公共施設CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	37,027	38,488 (1,461)

## 2 循環型社会の構築

### 主な指標「ごみ処理量」

平成 27 年度までに 22 年度比 5%減らす。



ごみ処理量とは、区が収集する家庭からのごみ（燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ）と事業者から持ち込まれるごみの合計値です。ごみ収集現場での地道な排出指導やあだち広報清掃特集号などにより、分別による経済効果や正しい排出方法を周知したことでごみ処理量は減少しています。

資源化率は、ごみ処理量のうち資源化されたものの割合です。燃やさないごみの資源化率が 90.80%、粗大ごみが 36.44%で、ごみ全体の資源化率は 19.72%となりました。

区公共施設が排出するごみ量は、ごみの分別・リサイクルを進めてきた結果、26 年度のごみ量は前年度よりも減少し、目標に近づいています。区は、目標の達成をめざし、今後も一事業者として手本となるよう、ごみの発生抑制に努め、ごみの排出量の抑制と廃棄物の適正な処理を進めていきます。

雨水流出抑制実施率については、100%となり目標を達成しています。

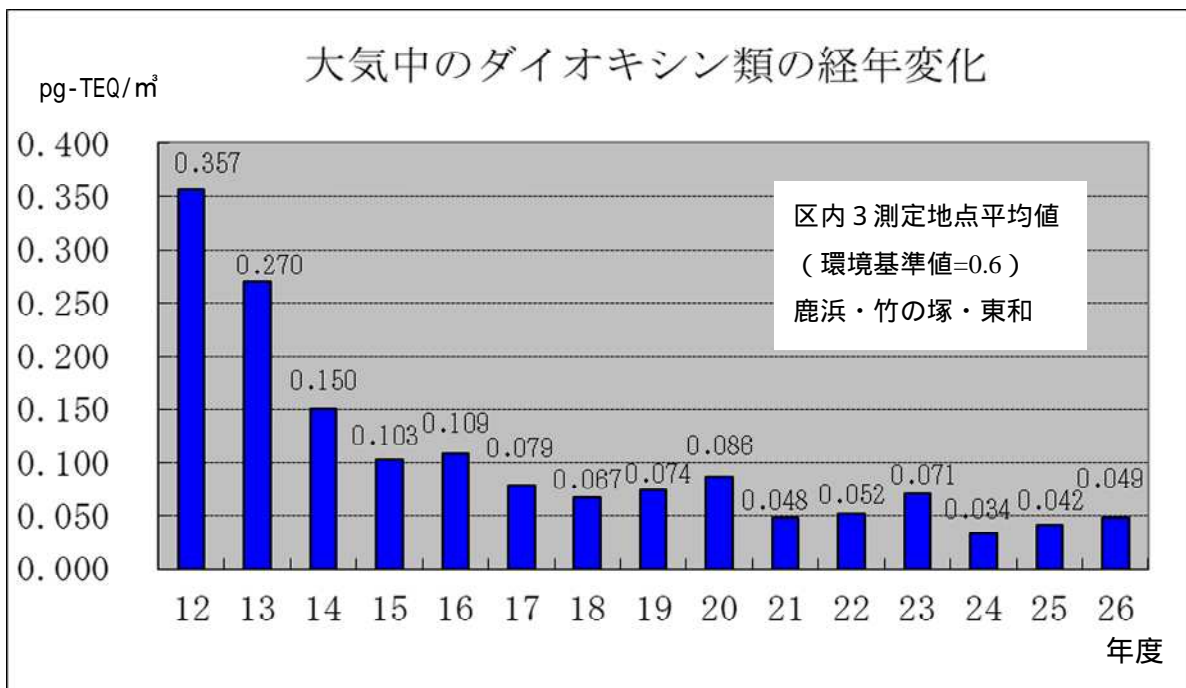
## 目標

指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)	27 年度 目標値
ごみ処理量(トン)	186,079	182,984 22 年度比 4% ( 3,095)	181,687 22 年度比 5%
資源化率(%)	20	20 (0)	22
区公共施設排出ごみ量(トン)	2,649	2,524 ( 125)	2,447
雨水流出抑制実施率(公共・民間)(%)	99 (合算値)	100(合算値) (1)	100 (合算値)

## 3 健康・安全な暮らしの確保

### 主な指標「ダイオキシン類環境基準( )適合率(大気)」

大気中のダイオキシン類環境基準適合率 100%を堅持する。



平成26年度現在、ダイオキシン類環境基準適合率は100%を維持しています。今後も100%を堅持するため、引き続き小型焼却炉の規制や、野焼きに対するきめ細かな指導など、ダイオキシン類の排出削減に努めていきます。

浮遊粒子状物質（SPM）は、粒径が0.1ミリメートル以下の物質で、車の排気ガスなどに含まれています。車の交通台数が多い足立区では測定値の変化について注視が必要です。

区施設における空間放射線量については、区の基準（地上50センチメートルの高さで毎時0.25マイクロシーベルト、または高さを問わず毎時1マイクロシーベルト）を超えませんでした。今後も継続的に調査を実施し、数値を公表していきます。万一基準を超えたときは、立ち入り禁止措置や土の入れ替えなど放射線量を低減する対策を進めます。

環境基準・・・大気・水質・騒音などについて、健康や生活環境を保全するために維持することが望ましい基準として、環境汚染物質などの濃度や音などの大きさを定めた数値。

#### 目標

指標	25年度実績	26年度実績 (対前年度増減)	27年度 目標値
ダイオキシン類環境基準適合率(大気)(%)	100	100 (0)	100
硫黄分規制値適合率(%) ( 1 )	100	100 (0)	100
適正管理化学物質の環境への排出率(%) ( 2 )	0.28	0.24 ( 0.04)	0.18
工場等排水水質規制基準適合率(%) ( 3 )	100	100 (0)	100
浮遊粒子状物質（SPM）環境基準適合率 (%)	100	100 (0)	100
主要幹線道路の自動車騒音常時監視の夜間 適合率(%) ( 4 )	80.7	90.7 (10)	75.0
区施設における地上50センチメートルの空 間放射線量(毎時マイクロシーベルト)	0.25 未満	0.25 未満 (0)	0.25 未満

1 硫黄分規制値適合率：重油などの石油系燃料を一定以上使用している事業場のうち、使用する石油系燃料中の硫黄分の基準値に適合する事業場の割合

2 適正管理化学物質の環境への排出率：事業場内で使用された管理の対象となる化学物質のうち、環境中へ排出された物質の割合

3 工場等排水水質規制基準適合率：事業場から川に排出される排水中に含まれる有害物質等が規制基準を満たしている事業場の割合

4 主要幹線道路の自動車騒音常時監視の夜間適合率：調査対象戸数のうち、夜間の自動車騒音が環境基準を満たした戸数の割合

## 4 人と自然の豊かなふれあいの創出

### 主な指標

「区内 8 河川のうち、BOD 5 以下（生活環境の保全に関する環境基準：C 類型）（ ）を満たす河川」

### 河川調査地点における各年度 BOD の測定結果

（単位 mg/l）

	河川名（調査地点）	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
1	毛長川（谷塚橋）	3.7	4.3	4.1	4.8	3.2	3.2	3.3	3.4
2	毛長川（舎人橋）	4.4	5.0	4.3	7.5	4.1	3.8	4.6	3.8
3	伝右川（伝右橋）	3.6	3.6	3.5	2.9	4.2	3.4	3.0	3.7
4	綾瀬川（内匠橋）	2.8	3.3	3.3	3.4	4.8	3.6	2.8	3.6
5	隅田川（千住大橋）	2.1	3.0	3.3	4.6	3.9	4.0	5.0	4.2
6	新芝川（南平大橋）	2.7	4.4	4.0	3.7	5.3	4.4	3.1	3.7
7	荒川（鹿浜橋）	2.4	2.5	2.2	2.2	4.8	4.5	3.0	3.2
8	圀川（六木）	6.0	6.5	6.6	6.8	7.0	4.5	5.1	5.7
9	圀川（小溜井）	15.0	18.2	13.0	9.8	5.2	18.0	4.1	3.9
10	中川（中川橋）	3.2	5.5	4.2	6.1	5.8	5.1	5.3	3.8

各年度 年 4 回の測定結果の平均値

生物化学的酸素要求量（BOD）：川の汚れを示す指標で、値が大きいほど汚れている。河川の種類によって基準が定められ、区内の 8 河川は、国・都により C 類型に指定されている。

C 類型の環境基準値は 5（mg/l）以下。

主要な河川には水質の目標として環境基準が定められています。この基準の達成状況や汚れの現状を知るために、区は昭和 46 年度から水質調査を行っています。平成 26 年度は、8 河川 10 地点で調査した結果、7 河川にて BOD の基準を満たしていることが確認されました。

川の魚の種類（参考値）は、平成 26 年度は区内を流れる 4 河川計 6 地点で調査を行い、合計 6 目 12 科 29 種（うち 5 種は外来種）の魚類の生息を確認しました。昨年度、確認されたカワアナゴとウロハゼが今年度は確認されませんでした。これらの魚種は、地球温暖化や環境改善の影響を受けやすい種であるため、今後も数の変化を注視していきます。また、特定外来生物のカワヒバリガイが、今年度も綾瀬川で確認されました。大量に増加すると水路をふさぎ除去が困難になり、大量死すると水質の悪化を招くおそれがあり、今後の動向について注意する必要があります。



## 目標

指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)	27 年度 目標値
区内 8 河川のうち B O D 5 以下(生活環境の保全に関する環境基準：C 類型)を満たす河川(河川)	6	7 (1)	6
ビオトープ数(学校)(か所)	14	14 (0)	14
農業体験学習実施校(校)	65	80 (15)	71
生産緑地面積(ha)	34.12	33.38 ( 0.74)	36.00
自然観察会等開催回数(年間)(回/年)	178	236 (58)	310
体験教室等( )開催回数(年間)(回/年)	188	237 (49)	300

## 参考値

参考指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)
川の魚(外来種を除く)の種類(種)	30	29 ( 1)
野鳥の種類(種)	71	73 (2)

体験教室等：区の施設等で実施されるイベントのうち、自然や生きものとのふれあいを体験することを主体としたもの

## 5 環境に配慮したまちづくり

### 主な指標「樹木被覆率」

樹木被覆率（樹木に覆われた面積の占める割合）を、平成 28 年度までに 9.4%に増やす。

### 経年変化をみる指標「緑視率」

緑視率を、平成 27 年度までに 15.8%に増やす。

### 緑視率の経年変化

（単位：％）

平成 22 年度 実績値	平成 23 年度 実績値	平成 24 年度 実績値	平成 25 年度 実績値	平成 26 年度 実績値	平成 27 年度 目標値
14.6	14.6	14.6	14.8	15.1	15.8

主な目標としている「樹木被覆率」は、10年に1度の調査のため、日常生活の実感として捉えられる緑の量である「緑視率」（主要な測定地点で撮影した写真画面に占める緑の割合）を、経年変化をみる指標として設定しました。昨年度は、区民、事業者・団体や、区の施設等で緑化の推進・保全に努めた結果、0.3ポイント増加しました。今後も目標達成にむけて、緑化の推進を図っていきます。

区立学校緑被率は、新たに足立小学校の改築に合わせて屋上緑化を実施しました。今後は改築校の屋上緑化を実施していきます。

空地適正管理指導是正率は、25年度に比べて1ポイント減の96%でした。空地の雑草等を放置すれば害虫も多く発生し、火災の危険性や不法投棄の温床となることも考えられますので、「生活環境の保全に関する条例」に基づき、区が所有者等から委託を受けて草刈をするなど、不良な状態の解消に努めていきます。

### 目標

指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)	27 年度 目標値
緑視率(%)	14.8	15.1 (0.3)	15.8
公園面積率(公園率)(%)	6.0	6.0 (0)	6.0
緑化計画書( 1 )提出割合(%)	88	93 (5)	100

指標	25 年度実績	26 年度実績 (対前年度増減)	27 年度 目標値
保存樹林 ( 2 ) 指定か所数 (か所)	19	20 (1)	21
電線地中化延長数(m)	7,192	8,180 (988)	11,900
区立学校緑被率(%)	13	14 (1)	14
空地適正管理指導是正率(%)	97	96 ( 1)	100
小型雨水貯留槽設置台数(台)	313	315 (2)	350

- 1 緑化計画書：一定規模以上の敷地面積に建築行為等を行う場合に条例により提出が義務付けられているもの
- 2 保存樹林：樹木の一集団が占める土地の面積が 300 平方メートル以上で、所有者・管理者からの申請により区が指定したもの

## 6 環境を学び、実践の輪を広げる

### 主な指標「身近な環境配慮行動に取り組む人( )」

#### 身近な環境配慮行動に取り組む人を 10 万人に増やす。

省エネノート登録数の 26 年度の実績は 4,704 世帯で、前年度に比べて増加しています。

夏休み子どもエコプロジェクトは、小学 5 年生が夏休みに家庭の省エネに取り組むもので、区内の全小学校から提出されました。

地域で自主的に美化活動をしている団体数は、26 年度では区内コンビニエンスストアに対し参加を呼び掛けたところ、多数の参加があり、参加団体は倍増しました。今後も参加団体の増加を目指していきます。

省エネノート登録世帯、あだちエコネット事業登録者、環境に関するリーダー・ボランティア、夏休み子どもエコプロジェクト提出者の合計

目標

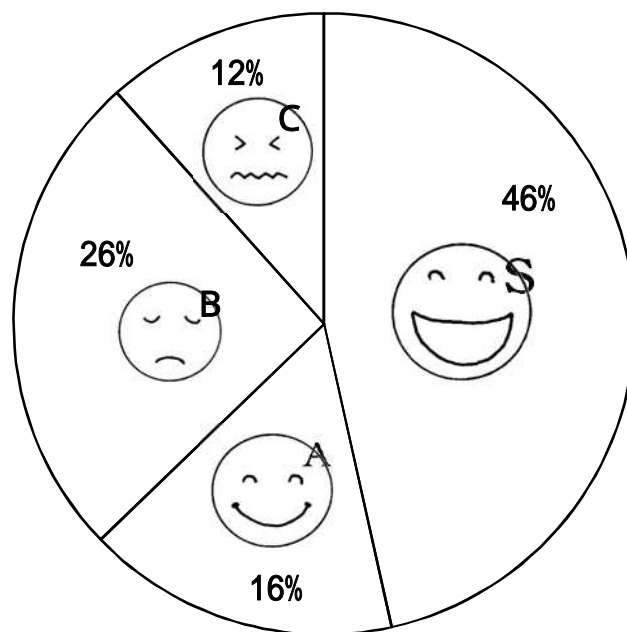
指標	25年度実績	26年度実績 (対前年度増減)	27年度 目標値
身近な環境配慮行動に取り組む人(人) ( から までの合計)	91,079	96,395 (5,316)	100,000 超
省エネノート(あだち区民環境家計簿)( 1 )登録数(世帯)( )	4,579	4,704 (125)	5,000
あだちエコネット事業( 2 )登録者数(人)( )	72,695	73,230 (535)	83,500
環境に関するリーダー・ボランティアの数(人)( )	308	344 (36)	337
夏休み子どもエコプロジェクト( 3 )提出者(人)( )	13,497	18,117 (4,620)	23,200
環境に関するイベント参加者数(人/年)	37,910	271,938 (234,028)	62,000
環境マネジメントシステム(ISO 14001、エコアクション21)の認証を取得した事業所数(事業所)	121	118 (3)	130
地域で自主的に美化活動をしている団体数(団体)	130	245 (115)	60
環境学習講座等対応数(再生館講座、学び応援隊)(件/年)	172	204 (32)	84
キッズISO14000プログラム初級編( 4 )応募数(人/年)	563	893 (330)	1,500
こどもエコクラブ( 5 )登録団体数(団体)	0	1 (1)	15

- 1 省エネノート：各家庭の電気使用量等のエネルギーの消費を記録し、数値を「見える化」することで省エネ行動を促す取組み
- 2 あだちエコネット事業：ペットボトルの回収、使わなくなったおもちゃの再利用など、区と区民、事業者、団体が連携して実施している環境負荷を低減する取組み
- 3 夏休みエコプロジェクト：区内の小学5年生を対象に夏休みに各家庭でエネルギー利用状況を調べ、省エネを実践してもらう取組み
- 4 キッズISO14000プログラム：子ども向け環境教育プログラムの国際規格で、家庭の中で環境配慮行動に取り組み、それを数値評価してさらに進めていくもの
- 5 こどもエコクラブ：環境省が支援する家庭、地域、学校で実施する環境活動クラブ

# 足立区環境基本計画 環境指標一覧(47指標)

平成26年度の進捗状況 評価別指標数

評価		指標数
S	すでに目標を達成している指標	20
A	着実に目標達成に向かっている指標	7
B	目標に近づいているが、目標達成には取り組みの強化が必要な指標	11
C	数値が目標に近づいていない指標	5
参考数値	経年の変化を捉えるため、把握していく数値	4
	合 計	47





分野別指標一覧

柱	指標	指 標	単位 (「/年」とある もの以外は年 度末時点での 数値 = 累計値)	現状の実績		参考				26年度 数値	26年度 実績 評価	目標値		進捗状況・今後の見通し	所管課
				年度	数値	22年度数値	23年度数値	24年度数値	25年度数値			年度	数値		
地球温暖化・エネルギー対策	1	区内の年間電気使用量	kWh/年	22	28億1,576万	28億1,576万	25億7,212万	25億6,990万	25億3,708万	24億5,836万		27	25億3,418万 H22年度比 10%	12.7%削減となり、目標を達成した。引き続き、省エネ家電等の補助金制度などにより更なる節電意識の向上を図っていく。	環境政策課
	2	区内の年間都市ガス使用量	m <sup>3</sup> /年	22	1億3,867万	1億3,867万	1億3,707万	1億3,710万	1億3,413万	1億3,478万		27	1億3,589万 H22年度比 2%	2.8%削減となり、目標を達成している。背景には、身近な省エネルギー行動が実践されていると考えられる。今後もこの行動を継続するために、省エネに対する意識向上を図っていく。	環境政策課
	3	区内に設置された太陽光パネルの発電容量	kW	24	11,600		約9,400	約14,700	約16,800	約19,940		27	25,000	目標に近づいているが、引き続き補助金制度のほか、「そらつな制度」PRなどにより目標の達成を目指す。	環境政策課
	4	区施設での年間電気使用量	kWh/年	22	7,748万	7,748万	6,907万	7,032万	7,122万	6,900万		27	6,586万 H22年度比 15%	前年度と比較して使用量は減少したが、目標達成は厳しい状況である。今後も高効率機器への交換や運用改善の強化、職員の節電意識の徹底などにより目標に向けて引き続き推進していく。	環境政策課
	5	区施設での年間都市ガス使用量	m <sup>3</sup> /年	22	362万	362万	342万	332万	338万	314万		27	337万 H22年度比 7%	13.2%削減となり、目標を達成した。職員の省エネ意識の徹底などにより引き続き省エネに取り組んでいく。	環境政策課
	6	自転車駐車場収容台数	台	22	58,333	58,333	59,996	61,216	59,859	59,191		27	64,000	収容台数は目標値に達していないが、駅前での自転車放置率は、23区中最少の0.53%となっている。また、区営及び民間駐輪場にも空きがあり、充足している。今後、自転車駐車場の閉鎖等により、収容台数の不足が予測される地域においては、民営補助金制度を活用し、民営自転車駐車場の設置を推進する。	交通対策課
	7	自転車利用環境整備延長	km	22	1.1	1.1	1.3	1.3	1.3	1.3		27	1.3	目標を達成している。今後、足立区自転車利用環境整備計画の見直しを行い、区内都道の整備動向や都市計画道路の整備状況に合わせて、自転車利用環境整備を推進する。	交通対策課
	8	CO2排出量(区全体)( 1) 参考数値	トン/年	23	234万	245万	234万	232万	242万	256万	参考数値	27	推計A 231万 推計B 211万	発電時の排出係数の影響を受けるため、目標値にはしないが、参考指標として数値を把握していく。なお、CO2排出量の算定に時間がかかるため、当該年度の数値は、当該年度に確定した前々年度の実績である。(平成26年度の数値は、平成24年度の排出量)	環境政策課
	9	区公共施設CO2排出量 参考数値	トン/年	22	39,066	39,066	34,900	40,849	37,027	38,488	参考数値	27	推計A 39,234 推計B 33,767	発電時の排出係数の影響を受けるため、目標値にはしないが、参考指標として数値を把握していく。	環境政策課
循環型社会の構築	10	ごみ処理量( 2)	トン/年	22	191,249 (19万1千)	191,249	189,008	188,481	186,079	182,984		27	181,687 H22年度比 5%	ごみ収集現場での地道な排出指導やあだち広報清掃特集号などにより、分別することによる経済効果や正しい排出方法を周知したことでごみ処理量は減少している。	ごみ減量推進課
	11	資源化率( 3)	%/年	22	17	17	19	19	20	20		27	22	木製家具の資源化事業により、資源化率は向上したものの、目標値には達していない。燃やすごみとして捨てられている古紙(年間2万トン)をきちんと分別してもらうよう啓発活動を強化していく。	ごみ減量推進課
	12	区公共施設排出ごみ量	トン/年	22	2,576	2,576	2,628	2,612	2,649	2,524		27	2,447	昨年度に比べて減少した。今後も、ごみ排出量の抑制と、分別の徹底による資源化の推進に努める。	環境政策課
	13	雨水流出抑制実施率 (公共・民間)( 4)	%/年	22	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	99 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)		27	100 (公共・民間 合算値)	今後も事業者に対し環境整備基準、公共施設等整備基準の指導を適切に行っていく。	企画調整課(公共) 開発指導課(民間)
14	ダイオキシン類環境基準適合率(大気)	%/年	22	100	100	100	100	100	100		27	100	今後も100%を堅持する。	生活衛生課	

分野別指標一覧

柱	指標	指 標	単位 (「/年」とある もの以外は年 度末時点での 数値 = 累計値)	現状の実績		参考				26年度 数値	26年度 実績 評価	目標値		進捗状況・今後の見通し	所管課
				年度	数値	22年度数値	23年度数値	24年度数値	25年度数値			年度	数値		
健康・安全 なくらしの確保	15	硫黄分規制値適合率( 5)	%/年	22	100	100	100	100	100	100		27	100	今後も100%を堅持する。	生活環境保全課
	16	適正管理化学物質の環境への排出率( 6)	%/年	22	0.18	0.18	0.19	0.28	0.28	0.24		27	0.18	対象事業場の稼働状況による変動の範囲と考えられるため、今後の動向を注視する。	生活環境保全課
	17	工場等排水水質規制基準適合率( 7)	%/年	22	100	100	100	100	100	100		27	100	今後も100%を堅持する。	生活環境保全課
	18	浮遊粒子状物質(SPM)環境基準適合率	%/年	22	100	100	100	100	100	100		27	100	今後も100%を堅持する。	生活衛生課
	19	主要幹線道路の自動車騒音常時監視の夜間適合率( 8)	%/年	22	74.3	74.3	75.0	86.4	80.7	90.7		27	75.0	目標を達成している。今後も道路管理者等の関係機関と連携して対応する。	生活衛生課
	20	区施設における地上50センチメートルの空間放射線量	毎時 マイクロ シーベルト /年	22	0.25未満	0.25未満	0.25未満	0.25未満	0.25未満	0.25未満		27	0.25未満	今後も関係各課と協力して区内の状況把握に努め、状況が安定した場合は、測定体制を検討する。	生活衛生課
人と自然の 豊かなふれあいの創出	21	区内8河川のうちBOD5以下(生活環境の保全に関する環境基準:C類型)を満たす河川( 9)	河川/年	23	5	5	5	6	6	7		27	6	8河川中7河川で指標値以下であったので、今後もこれを維持するように努める。指標を満たせなかった垢川についても、長期的には水質は改善傾向にあるので、最終的には全河川でBOD5以下を目指す。	生活衛生課
	22	ピオトープ数(学校)( 10)	か所	22	14	14	14	14	14	14		27	14	26年度は数値に変更はない。今後も現状を維持していく。	学校施設課
	23	農業体験学習	校/年	22	53	53	55	50	65	80		27	71	前年と違い天気の影響が少なく中止になることがほとんどなかった。そのため、26年度は目標を達成することができた。	産業振興課
	24	生産緑地面積( 11)	ha	22	36.91	36.91	36.63	35.48	34.12	33.38		27	36	面積増加対策を推進しているが、日暮里舎人ライナーの開通などに伴う開発の増加や従事者の高齢化により減少傾向にある。	都市計画課
	25	自然観察会等開催回数(年間)( 12)	回/年	22	291	291	322	214	178	236		27	310	236回(生物園157、都市農業公園24、荒ビジターセンター22、桑袋ピオトープ33)生物園のリニューアルオープンにより回数が増加した。今後も同程度の事業開催を予定している。	公園管理課
	26	体験教室等開催回数(年間)( 13)	回/年	22	295	295	233	145	188	237		27	300	環境政策課:51回(あだち再生館51) 公園管理課:186回(生物園18、都市農業公園100、荒川ビジターセンター39、桑袋ピオトープ29、都市農業公園での開催回数が増えた。)	環境政策課 公園管理課
	27	川の魚(外来種を除く)の種類参考数値	種/年	23	16	28	16	34	30	29	参考数値	27	20	川の生物の状況を把握するため、引き続き調査を続けていく。	環境政策課
	28	野鳥の種類参考数値	種/年	22	76	76	78	75	71	73	参考数値	27	76	鳥の生息状況を把握するため、引き続き調査を続けていく。	環境政策課



分野別指標一覧

柱	指標	指 標	単位 (「/年」とある もの以外は年 度末時点での 数値 = 累計値)	現状の実績		参考				26年度 数値	26年度 実績 評価	目標値		進捗状況・今後の見通し	所管課
				年度	数値	22年度数値	23年度数値	24年度数値	25年度数値			年度	数値		
環境に配慮したまちづくり	29	緑視率( 14)	%/年	22	14.6	14.6	14.6	14.6	14.8	15.1		27	15.8	計測地点の多くは、道路の交差点と駅前広場であり、ほぼ緑化が完了しているため大幅な向上は難しい状況にある。緑化事業の成果が現れる地点への見直しを視野に入れ検討していく。	みどり推進課
	30	公園面積率(公園率)	%/年	22	5.8	5.8	5.9	6.0	6.0	6.0		27	6.0	区画整理やまちづくり、開発事業等により確実に公園等の面積は増加している一方で、都営住宅の建替え等により、公園面積率は昨年と同様であった。地域によって公園率に差が生じているので、公園の適正配置を検討していく。	みどり推進課
	31	緑化計画書提出割合( 15)	%/年	22	92	92	88	85	88	93		27	100	建築確認申請に基づき事業主に緑化計画書の提出を促し、昨年度に引続き提出割合が向上した。引続き提出を促すよう努めていく。	みどり推進課
	32	保存樹林指定か所数	か所	22	16	16	17	18	19	20		27	21	保存樹林所有者紹介により、屋敷林1箇所を調査して追加指定した。引き続き候補地の選定及び指定に取り組んでいく。	みどり推進課
	33	電線地中化延長数	m	22	6,002	6,002	6,332	6,712	7,192	8,180		27	11,900	地区計画や都市計画道路等の整備計画に従い引き続き取り組んでいくが、目標達成は困難な状況である。	企画調整課
	34	区立学校緑被率	%/年	22	11	11	11	11	13	14		27	14	足立小学校の屋上緑化により数値が上昇した。今後は改築校の屋上緑化を実施していく。	学校施設課
	35	空地適正管理指導是正率( 16)	%/年	22	90	90	96	98	97	96		27	100	ほぼ前年に近い実績値であるが、土地所有者が不明で継続調査中の継続案件が残っている。今後も制度の周知に努め指導を続けていく。また、土地所有者が不明で継続調査中の案件は、新たな手法を構築して、解決していく。	生活環境保全課
	36	小型雨水貯留槽設置台数	台	22	延236	236	280	313	313	315		27	350	平成26年度の申請は2件にとどまった。平成27年度より単独の補助金制度を実施し、目標の達成を目指す。	環境政策課
環境を学び、実践の輪を広げる	37	身近な環境配慮行動に取り組む人( から までの合計)	人	23	88,798		88,798	85,410	91,079	96,395		27	100,000超	省エネノート登録数や夏休み子どもプロジェクト提出数が増加した。引き続き目標達成に向けて推進していく。	環境政策課
	38	省エネノート(あだち区民環境家計簿)登録数( )( 17)	世帯	23	3,711	2,796	3,711	4,058	4,579	4,704		27	5,000	登録者数は増加しているものの、目標達成のため引き続きイベント等の機会を通じて積極的にPRしていく。また、登録者が利用しやすいシステムや取り組みの成果が得られるような内容を検討していく。	環境政策課
	39	あだちエコネット事業登録者数( )( 18)	人	23	80,469	54,019	80,469	71,963	72,695	73,230		27	83,500	わずかながら利用者数は増加している。引き続き、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどを活用して情報発信し、利用者増を目指す。	ごみ減量推進課
	40	環境に関するリーダー・ボランティアの数( )	人	23	298	327	298	310	308	344		27	337	産業振興課:147人(農業ボランティア認定者)7人増加した。毎年約15名の農業ボランティア養成講座受講者を募集している。 公園管理課:136人(各施設で活動するボランティア数。佐野いこいの森1、桑袋ビオトープ公園29、荒川ビジターセンター12、都市農業公園21、生物園73) 生物園、桑袋ビオトープ公園で新たなボランティアを新設したため人数が増加した。 環境政策課:38人(野鳥モニター) まちづくり課:23人(まちづくりカウンセラー) (自主的なまちづくりをしようとする団体等からの要請を受けて委員等を派遣する制度はあるが、平成26年度までの実績はない。)	産業振興課 公園管理課 環境政策課 まちづくり課

分野別指標一覧

柱	指標	指標	単位 (「/年」とある もの以外は年 度末時点での 数値 = 累計値)	現状の実績		参考				26年度 数値	26年度 実績 評価	目標値		進捗状況・今後の見通し	所管課
				年度	数値	22年度数値	23年度数値	24年度数値	25年度数値			年度	数値		
41	夏休み子どもエコプロジェクト提出者( ) ( 19)	人	23	4,320		4,320	9,109	13,497	18,117	😊 <sup>A</sup>	27	23,200	26年度は全校から夏休み子どもエコプロジェクトワークブックの提出があり、着実に目標値へ近づいている。今後も教育委員会や学校と連携しながら環境学習の一環として取り組んでいく。	環境政策課	
42	環境に関するイベント参加者数	人/年	22	61,853	61,853	63,532	56,811	37,910	271,938	😊 <sup>S</sup>	27	62,000	環境政策課:16,470人 (再生館まつり 470、地球環境フェア 16,000)  公園管理課:255,468人 (生物園235,050、都市農業公園1,855、荒川ビジターセンター10,987、桑袋ピオトープ7,576)H26年度から生物園が指定管理者となり、毎日行うプログラムを増やしたため、参加者数が大幅に増大した。	環境政策課 公園管理課	
43	環境マネジメントシステム(ISO14001、エコアクション21)の認証を取得した事業所数( 20)	事業所	23	117		117	117	121	118	😞 <sup>C</sup>	27	130	認証取得事業所への助成金制度を広報等を利用して周知を進め、今後も助成金制度を継続し、取得事業所数増を目指す。	中小企業支援課	
44	地域で自主的に美化活動をしている団体数	団体	22	54	54	55	55	130	245	😊 <sup>S</sup>	27	60	H26年度に区内コンビニエンスストアに対し参加を呼び掛けたところ、多数の参加があり、参加団体は倍増した。今後も参加希望の団体を募っていく。	地域調整課	
45	環境学習講座等対応数(再生館講座、学び応援隊)	件/年	22	82	82	62	83	172	204	😊 <sup>S</sup>	27	84	あだち再生館204回、学び応援隊0回で、前年度より増加した。開催数はこれ以上増やすことは難しいため、内容の精査を行い、参加者数の増加を図る。	環境政策課	
46	キッズISO14000プログラム初級編応募数( 21)	人/年	22	404	404	525	780	563	893	😞 <sup>B</sup>	27	1,500	前年度に比べて応募数が増えているが、目標達成は難しい。引き続き、指導者向けの説明資料の工夫や学校に対して参加の働きかけなどをしながら、応募数の増加を図っていく。	環境政策課	
47	こどもエコクラブ登録団体数( 22)	団体	22	5	5	5	2	0	1	😞 <sup>C</sup>	27	15	平成26年度からあだち再生館の業務に位置付けたが、1団体だけの登録であった。引き続き、あだち再生館をこどもエコクラブ地方事務局として、小学校等に登録の呼びかけを行っていくが、目標達成は非常に難しい。	環境政策課	

## 【注釈】

- 1 CO<sub>2</sub>排出量は、電気使用量、都市ガス使用量、太陽光パネル発電容量の目標を達成できた場合の推計値。推計Aは、1キロワット時あたりの排出係数を2011（平成23）年度速報値0.463kg-CO<sub>2</sub>/kWhとした場合、推計Bは、1990（平成2）年の排出係数0.380kg-CO<sub>2</sub>/kWhとした場合の推計値。
- 2 家庭系区収集ごみ（燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ）と事業系持込ごみの合計値。
- 3 ごみ処理量のうち、資源化されたものの割合。
- 4 下水道への急激な雨水流入に伴う都市型水害を防ぐため、雨水の地下浸透や貯留によって流出量を抑制する。公共施設での整備と民間施設への設置指導を行っている。
- 5 一定量以上の重油等の石油系液体燃料を使用している事業場については、液体燃料中に含まれる硫黄分に規制値が定められている。  
適合率（%）＝規制値に適合した事業場数÷調査対象事業場数×100
- 6 環境中へ排出された適正管理化学物質の量（kg）/事業場内で使用した適正管理化学物質の量（kg）×100%
- 7 六価クロム化合物やシアン化合物等、工場等から下水道以外に排出される排水中の有害物質等が規制されている。  
適合率（%）＝排水規制に適合した事業場数÷調査対象事業場数×100
- 8 適合率（%）＝夜間の自動車騒音の環境基準を達成した戸数÷調査対象戸数×100
- 9 川の汚れを示す指標で、生物化学的要求量という。値が小さいほどきれい。
- 10 動植物の棲息・生育空間。都市における生垣・並木・屋上や壁面の緑など、人間と生物の共存が意識された空間概念でもある。
- 11 生産緑地法に基づき区から指定を受けた農地。1区画500平方メートル以上の土地で30年間営農が条件となっている農地面積。
- 12 自然観察会等とは、生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ公園、荒川ビジターセンターで実施されるイベントのうち、自然や生きものを観察することを主体としたもの。
- 13 体験教室等とは、あだち再生館、生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ公園、荒川ビジターセンターで実施されるイベントのうち、自然や生きものとのふれあいを体験することを主体としたもの。
- 14 区内60箇所の駅前や交差点の観測ポイントで撮影を行い、委託業者に解析依頼する。地上から高さ1.5mを基準として撮影している。
- 15 「足立区緑の保護育成条例」により、区内に建築物の新築、改築、増築等行おうとする者は敷地内の緑化に努め、緑化計画書を区長に提出することとされている。
- 16 空き地の土地所有者に対し、害虫の発生やゴミの不法投棄などで住環境に悪影響を及ぼさないよう、定期的な草刈りの促進や、不法投棄の対策についての連絡調整を行っている。
- 17 家庭の日常生活におけるエネルギーの消費を記録し、環境負荷低減の目安にする記録簿。区HP上に作成したWEB版は、各家庭で省エネ生活の結果を送信すると、区民が取り組んだCO<sub>2</sub>削減量等が集計される。
- 18 ペットボトル回収事業、飲料缶モデル回収事業、循環型食品リサイクル事業、おもちゃトレード事業の総称。ペットボトル回収事業、飲料缶モデル回収事業では、あだちエコネットポイントカードに、お買い物券等に交換できるポイントがたまる。
- 19 区内小学5年生を対象に夏休み期間中にワークブックを配布している。電気メーターを見て電気使用量を確認したり、主要電気機器の使用時間を調べながら、省エネ方法を考え、実践し、日頃の生活を見直すきっかけとすることを目的としている。

- 20 ISO14001：組織活動、製品、サービスの環境負荷低減といった環境パフォーマンスを改善する仕組み、運用システム（環境マネジメントシステム）を構築するために要求される国際規格。  
エコアクション21：環境省が提供する環境配慮の取組みを進めることができるツール。製造・サービスを含む全ての事業活動を行う事業者に対して、環境への取組みに関する目標を持ち、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等の行動を起こし、結果を取りまとめて報告する。
- 21 子供向け環境教育プログラム。子どもがマネージャーとなり、家庭の中でのCO2排出抑制を始めとする環境配慮行動を数値評価していく。東京都が「入門編」を、区が「初級編」を実施。
- 22 環境省が参加を呼びかけている、地域における環境活動を行う小中学生のグループ。